

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000025		
法人名	(有)兼清メディカルサービス		
事業所名	グループホーム兼清		
所在地	山口県光市大字浅江2400番地4		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

衰えていく不安にできるだけ、介護・医療・生活・家族関係等にトータルで支援をしていくようにしています。最後まで前向きに明るさを失わないように見守っていきたくと思っています。できるだけ自発的、自主的に生きられるように支援しています。食事は特に力をいれています。栄養士さんの献立で手作りで。毎日おいしく、楽しくを心掛けています。おやつもスタッフが手作りを週に一度は作るようにしています。内に籠もらないで、車椅子の方もできるだけドライブに出かけるようにしています。外からのボランティアもできるだけ、終わった後の交流を含めて生活に取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との日々のかかわりの中で、利用者の思いにつながる言葉をケア記録に色を替えて記録しておられ、利用者一人ひとりの気持ちを理解して、思いや意向の把握に努めておられます。内部研修の年間計画を作成され、教育研修と技術研修に分けて、それぞれ月1回実施しておられ、基礎知識や介護技術が習得できるように、職員のレベルアップにつなげる取り組みをされています。職員の確保のため、パート職員は勤務時間帯を職員の働きやすい時間帯や希望する時間帯に勤務できるよう配慮されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を玄関の目立つ位置に掲げ、日々理念に基づいたサービスを提供できるように皆で共有し、取り組んでいる	事業所独自の理念として 1.永年住みなれた地域で暮らしましょう 2. 老いても人間らしく美しく暮らしましょう 3.美味しく食べて元気になりましょう 4.病気と共生し、長生きをしましょう という4つの具体的な理念を掲げ、運営者、管理者、職員間で共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学生の慰問や、自治会・専門学校等のイベントなどへの参加により、地域とのつながりが途切れることのないように努めている	地域で開催される祭やイベントに参加している。小学生やコーラス・ギター演奏グループ等のボランティアや、利用者の知人・家族などが大人数訪れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会開催時や地域住民・地域ボランティアの慰問時に、できるだけ利用者に関わって頂けるよう心がけている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義・必要性について除々に理解すると共に、自己評価を通じて、気づきや改善課題の一つずつ取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を実施している。評価を活かして各種マニュアルの整備や研修の充実等改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、そこで出された意見や気づきをしっかりと取り入れサービスの質の向上につながるよう取り組んでいる	2ヶ月に1回、認知症を支える会、元小学校長、市介護相談員、元民生委員、ボランティア。地域包括支援センター、職員をメンバーとして小規模規模多機能事業所と一緒に開催している。状況報告や行事報告をし、意見交換や情報交換をしている。ヒヤリはつとや事故報告に対する考え方や対応を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催(1回/2ヶ月)や問題や相談がある場合にはその都度連絡を取り、協力関係が築けるよう努めている	地域ケア会議に参加して意見交換をしたり、問題や相談がある時はその都度連絡をするなど、担当課との連携を深めながら協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を進めており、職員は正しく理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関には施錠していない。部屋は利用者本人が開錠や施錠できるようにしている。	施設内研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアについて理解して取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがあり、日頃から各人で虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について特に研修等行っていないが、今後必要に応じて、活用できるよう制度について学ぶ機会を持つよう努める		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を説明し、入所にあたっての不安や疑問点を説明して、理解・納得して頂いている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満等は気軽に言える雰囲気にしており、苦情や相談も心安く受け付けており、ミーティングや推進会議にて報告している	苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。来訪や電話で気軽に意見を言えるような雰囲気作りに努めており、出された意見は職員ミーティングや運営推進会議へ報告し、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けており、話し合いながら運営に反映している	月1回開催されるミーティングで話し合いをして意見を聞くほか、気づきが有ればその都度運営者に提案し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	女性の多い職場なので、家族の都合もできるだけ考慮するようにしている。(勤務表作成時) 個々の特性も給与に考慮している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修・防災研修等参加(外部) 介護技術研修・介護教育(内部)に取り組んでいる。独身が少ないので、施設内でCD等を利用することもある。	内部研修は教育研修・技術研修と区別され、それぞれ月1回開催しており、働きながらトレーニングしていく体制が整備されている。外部研修についても推奨され、参加者は伝達講習等で、その内容を職員で共有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	該当者・希望者には、専門分野の研修や協議会への参加を呼びかけ、交流の機会を設けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の利用者や家族との面談により、本人の希望や要望、不安等を十分に理解し、その利用者に合わせた関わり方に配慮して、安心して頂けるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の家族との面談により、家族の困っていることや、不安・要望を受け入れ、十分な説明により、家族が納得し、安心して頂けるよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談時、十分な話し合いを持つことにより、まず一番に必要なことを、見極め、必要であれば、家族支援を始め、他のサービス支援の利用も含めた対応に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに合った役割を提供し、馴染みのある軽作業(調理・洗濯たたみ等)や経験を職員が学びながら、利用者との支えあいの関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者についての情報を、家族と共有し、施設職員では対応できない部分を、一部家族に協力頂きながら利用者を支えていく関係を築いている（利用者希望の特別な外出・外泊等）		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に来所して頂けるように、面会時間の緩和や行事参加への案内、定期的な通信誌の発行、馴染みのある場所への外出等の支援を行なっている	家族や知人の来訪時は湯茶の接待で歓迎し、面会時間の緩和など、面会を通して馴染みの関係が続けられるよう配慮している。馴染みの理美容院や敬老会、スーパーでの買い物等、家族の協力を得ながら、馴染みの場所や人との関係を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別レクリエーション・集団レクリエーションを組み合わせて利用者同士の人間関係作りを支援している		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後であっても、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所受け入れ前に利用者の希望や意向を聞き柔軟に対応している又、日々の生活の中での情報はケア記録に残し、家族との情報の共有に努め、対応困難な場合は、一部家族の協力を頂きながら、対応している	日々のかかわりの中で、利用者の思いにつながる言葉は、1目でわかるよう、ケア記録に青字で記入し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意見も参考に本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ず情報提供をして頂き、フェイスシートを作成、生活歴や生活習慣・サービス利用の経過などを把握するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各部署の職員(医師、看護師、介護職員、ケアマネ、事務職員など)間の記録の引き継ぎや連携を行うことで一人一人の1日の過ごし方、心身の状態、有する力や現状を職員が総合的に把握、共有する努力をしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催(定期的) 面会時に本人の状況を説明、家族の意見を聞き、本人や家族の意見を反映した介護計画を作成している	初回の介護計画は利用者や家族を交え、利用者や家族の希望や気持ちを尊重した計画を作成している。その後は家族の意見や医師の意見を尊重しながら職員で話しあい、3ヶ月に一回、モニタリングを行い、介護計画を作成している。状況に変化が有った場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践結果を個別の介護記録に記入し、日々の引き継ぎで情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院への受診や外出・外泊等本人や家族の希望に、その都度柔軟に対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の自治会館・学校行事への参加 や地域住民・ボランティア等の慰問を積極的に受け入れている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族了解のもとに、協力病院がかかりつけ医となっており、適切な医療や健康管理が受けられる体制となっている(定期的な訪問診療・必要に応じた個別の受診支援)	利用者は、協力病院をかかりつけ医としている。定期的な訪問診療や看護師による健康管理も行われている。急変時の受診や往診にも対応しており、専門医への受診等、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者を良く知る施設看護師は協力医療機関の看護師と常に連携を取りながら、日常生活の健康管理や医療活用の支援を行っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、利用者が安心して治療に専念し、早期に退院できる様、医療機関との情報交換や連携・家族との相談を随時行っている。普段医療機関の病棟で働いているナースがきているので、入退院に連続性がある。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に基づき、重度化や終末期については、指針が示されており、その指針や方針は家族の了解を得て、職員全員で共有している	重度化や終末期についての指針が作成されている。指針や方針は家族の同意も得ながら、職員全員で共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時のマニュアルを作成している 事故発生時に備え、応急処置(心配蘇生・異物除去方法・熱中症)講習を受講(光消防署出張講習)	事故報告書やヒヤリはっと報告書に記録し、対応策を検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。マニュアルを作成し、応急手当や初期対応の研修と訓練を行い、実践力が身につくよう取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に基づき、2回/年 避難訓練を実施している	年2回避難訓練を実施している。民家が近くにない地域であり、隣の医療機関と協力体制を話し合っており、オンラインでつながっている総合警備保障を通して災害	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、誇りやプライバシーを損ねないよう対応を施設長や管理者が指導し、職員間で共有し、徹底するよう努めている	一人ひとりの人格を尊重しており、誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮することなく過ごせるように日頃から、一対一の対話を持ち、本音や、能力を見つけることができるよう働きかけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での行動を好まない利用者に対しては、個別に対応し、できるだけ孤立しないよう関わり方に配慮している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に服選びや更衣ができない利用者に対しては、職員が本人の好みと気分に合わせて、その人らしい身だしなみやオシャレができるよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、形態を変えたり、嫌いなものであれば、好みのものに変更して、個別に提供している又、作業能力に合わせて、テーブル拭きや下膳を利用者が行えるよう支援している	三食とも事業所で食事づくりをしている。片付けなど利用者のできることを一緒にし、職員も同じ食事をしながら、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要栄養量・水分量が経口摂取できるよう、状態に合わせた食事を提供している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が毎食後、利用者一人一人に応じた支援を行っている(歯ブラシ・義歯洗浄・保管)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、個々の状況に合わせた声かけ・見守りによる定時・随時のトイレ誘導 夜間、紙パンツ(パット)等を使用し、定時・訴え時のトイレ誘導やポータブルトイレの見守りを行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響をより深く理解し、服薬に頼ることなく、飲食物の工夫や水分摂取の支援・軽い運動への参加等に取り組んでいる。なるべくオムツの使用を控えて、ポータブルトイレ等の座位を援助している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決められた曜日に入浴(3日/週程度)時間帯については、午前・午後 利用者の体調や状態・外出等の都合に応じて行っている	週3回入浴日を決め、利用者の状態や希望に応じて特殊浴槽や檜風呂で入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を、利用者の意思で選択できるよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬の目的や副作用・用法用量を理解するため、医師や薬剤師、看護師、介護士とで情報を共有している 定期的な往診時には状況を報告し、服薬について医師より指示をもらっている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団レクリエーションと併用し、個々の趣味や能力に合わせた個別の支援を行っている	編み物・習字・貼り絵・読書・広告たみ・家事等、利用者一人ひとりの趣味や力を活かし、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1回/週 交替で外出(ドライブ・買い物)の機会を設けている。又、在宅生活において行われていた年間行事(墓参り・法事等)や散髪・見舞等 家族の協力を得て、個別に外出できるよう支援している	週1回近隣へ1時間位のドライブや買い物など利用者の希望により出かけられるよう支援しており、家族の協力を得ながら、墓参りや法事・見舞い等にも出かけている。気分転換や外気浴のため、海も見える中庭や周辺の散歩も日常的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じ、千円程度、本人の能力を勘案した上で、所持したり、使えるよう支援している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の能力に応じて事前に家族の了解を得た上で、手紙や電話のやり取りができるよう支援している(一部、携帯電話の所持者あり)		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室に檜浴槽設置 中庭を中心とした設計で開放的な窓と空間に合わせた照明を設置又広いホールを数か所の扉とカウンターで仕切っている	中庭から自然で明るい日差しが入り、穏やかな共用空間であり、食卓とは別にソファや畳スペースが設置され、思い思いにテレビや団欒を楽しんでいる。対面式の厨房からは生活感も感じられる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室によりプライバシーが保たれている又ホールに数か所のテーブル、畳スペース、ソファを設置し、面会時の家族とのふれあいや、気の合う利用者同士のふれあいの場となっている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品の持ち込みを柔軟に対応している	ベットは備え付けで、その他の家具や調度品、小物類は、利用者と家族が相談し、使い慣れた物や好みの物を持ってきており、居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。各居室にはナースコールが設置されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリー対応 廊下や洗面所・トイレ・浴室には手すりを設置又カウンターを二段にし、利用者が下膳できるよう高さを設定している		